



令和8年2月1日発行

No.13



ごあいさつ

県母子部会長 岩 下 晴 美

ひとり親家庭福祉連合会会員の皆様には、日頃よりご尽力とご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。

母子会とは、ひとり親家庭や寡婦の同じ境遇の方々が、生活の向上や自立を目指し、互いに助け合い、情報交換などを通し会員の親睦を深める場であります。

さて、昨今の経済情勢を受け、米の価格高騰や日用品・食料品などの度重なる値上げにより家計の負担が増大し、更なる節約を余儀なくされているところです。

このような様々な困難により、会員の皆様が生活困窮にならないよう、それぞれの事情や想いに寄り添いながら、自立と尊厳を守り、子どもや若者の未来のために、社会や地域とのつながりを図り、誰もが安心して暮らせる共生社会の実現に向けて、互いを信頼し支え合っていくことが大切であると考えます。

皆様、ともに手を取り、励まし合い頑張ってまいりましょう。

栃木県ひとり親家庭福祉連合会の発展と皆様の健康をお祈り申し上げごあいさついたします。

夢を応援基金

「ひとり親家庭支援奨学金制度」



全母子協とローソングループが力をあわせ、ひとり親家庭の生徒さんを応援する「給付型奨学金」です。

◇奨学金額 月額3万円（返還不要、他の奨学金と併用可）

◇対象者 中学3年生、高等学校等1年～3年生

◇募集人数 全国400名（申請書、作文・面接等の選考により決定）

2025年度 栃木県では、5名の奨学生が給付を受けています。



2026年度は、2月中旬頃 募集内容が発表されます。

※詳細については、全国母子寡婦福祉団体協議会のホームページで確認してください。

頑張ってます！

各市町母子会の活動状況や頑張っているお母さん、こどもたちを紹介します。

* 塩谷地区連合体 *

♥ 令和7年12月21日（日）、毎年恒例のクリスマスケーキ作りを開催しました。

幼いお子さんには、感染症など急な体調不良は必ずと言っていいほどあるもので、なかなか申込者全員の参加が叶わないものです。今回は、16名の参加で実施することができました。

クリスマスケーキ作りの前に、みんなでファミリーレストランへ行きました。予算内であれば何でも好きなものを注文して良いので、皆さんのメニューを見る目は真剣です。メニューの組み合わせ方は皆さんとても上手で、好きなものだけが豪華に並んだテーブルばかりでした。



食事を終え、ケーキ作りの会場に移動し、ケーキ作りが始まりました。大人に手を添えてもらい包丁で果物を切ってみたり、大きなボウルの中で生クリームをミキサーで泡立てたり、緊張する場面があったりしましたが、とても楽しそうな子供たちでした。

自分の想像したケーキを作ろうと、果物の配置、クリームやデコレーションはどうするかを真剣に考えながら作っていました。完成したケーキを慎重に箱にしまい、大事に嬉しそうに持ち帰る姿が印象的でした。

これからも、母子会の役立つ情報の交換の場にもなると考えているので、子供から大人まで、皆さんが楽しく参加できる企画を考えていきたいと思っています。（H.E）



* 那須塩原市 *

♥ 8月に親子で木工細工を作ろう！を実施しました。

夏休みの工作づくりということで、各自でフォトフレームを作ったり、キースタンドを作ったりと楽しい時間を過ごしました。昼食は役員がカレーを作りかき氷と会話も弾みました。12月には恒例のクリスマス会を予定しています。

ケーキのデコレーション、ビンゴゲームそして今年は地元の方がボランティアで、バルーンアートを行ってくれるそうです。

40名以上の参加になるので準備も大変ですが楽しみです。ケーキも年々バージョンアップしてきて個性が光ります。

お子さんが高学年になると参加しにくいというお母さんにも声かけを行い、お母さんのみの参加も数人います。出席することで交流もできて仲良くなり、地区が離れていて余り交流が無かった人とも仲良くなれたらと思います。

今後も楽しめ、学ぶ交流ができる企画を考えていきたいと思っています。（織田 敏枝）

* 足利市 *

♥ 7月24日、足利フラワーパークにて親子でパン作りをしました。それぞれのグループに分かれて親子で楽しそうに色々なパンの形を作りました。店の方がパンを焼いている間に特典で付いていた、かき氷やソフトクリームなどを食べていました。暑くて溶けるのが早いのか子供達は忙しそうに口にはこんでいました。

11時になりランチの時間、ハンバーグを焼く作業があり親子でトングを持ち裏表にこげ目を付け、用意されたパンにチーズレタスハンバーグをはさみ食べました。

自分達で作ったパンが冷め、持ち帰る人やその場で手にとり食べている子供達もいました。

「柔らかくて美味しい」との事。ランチも子ども向けで好評でした。又、来年も企画したいと考えています。（大野 寿美子）

* 鹿沼市 *

♥ わたしは、「ぶちとまとの学び家」で月2回の勉強をしています。学習教室では、学校の宿題や自主学習で算数の勉強をしています。分からないところがあっても、3人の先生がやさしくていねいに教えてくれるので、前より勉強が分かるようになりました。

学校の算数のテストも100点がとれるようになりました。学びの家でのパソコンでゲームをしたりタイピングのれん習をしたり、ぬり絵をいんさつして家に帰ってからぬり絵ができます。また、パソコンで算数や社会のドリルもいんさつして勉強することができるのでとてもいいなと思っていて、中学生になっても通いたいと思います。

いつも教えてくれる先生に、ありがとうの気持ちをつたえたいです。これからもがんばりたいです。（K.S）



* 栃 木 市 *

♥ 私はお母さんと二人暮らしです。
だから遠くに行くことはあまりありません。でもひとり親会の行事に参加すれば、遠くまで行くことができます。
今回は、那須のサンパレーというところに行きました。

そこで楽しかったことが2つあります。

1つ目はプールです。その日はとても暑かったので冷たくてきもち良かったです。



2つ目はバスです。帰りにはバスの中でクイズがあり当たった人は景品がもらえました。

まだ、楽しかったことはたくさんありますが、今心に一番残っていることです。(日向野樹里)



* 壬 生 町 *

♥ 今年度の壬生町ひまわり会は母子さんが19組となり、毎年の事業の他に初めての試みで、7月28日子ども食堂を開催しました。15組の母子さんが参加し、総勢40名以上になり、壬生町にある日本料理「旬香」さんのご厚意で開催しました。

その時に、今年学校に入学した子供さんに入学祝い金と寄付で頂いたサッカーボールを差し上げました。子ども食堂のメニューはというとエビフライ、とりの唐揚げ、牛のステーキ、茶わん蒸し、ご飯は子供達に沢山食べてもらいたいのでお代わり自由でした。普段あまり交流のなかった母子さんたちも食事をしながら交流できたようでした。子供達からは美味しかった、楽しかったと大変好評で第2回は年度末の3月に開催予定です。

もう一つ初めての試みですが12月14日にお餅つきを開催しました。前日から役員さんが野菜を切って豚汁の準備をしてくれました。当日は社協の協力で、子供達がうすでもちをつき、きな粉とあんこのお餅、フランクフルト、豚汁とこどもたちも大喜びでした。

これからも皆が楽しめる企画を考えていきたいと思います。

(M.M)



夢を応援基金 奨学金を受給して

数学の先生をめざして

私は今、勉強と部活動に精一杯取り組んでいます。思うようにいなくて辛い時もあるけれど、それでも努力し続けるのには理由があります。それは、高校の先生になるという夢を叶えるためです。将来のことを真剣に考え始めた時、大人になっても好きなことを思い切りしたい、そしてその楽しさを子供達に教えたいと強く思いました。部活動としている競技かると、学べば学ぶほど好きになる数学に、ずっと関わり続けたいと考えています。

その考えが強くなったのは、高校2年生の時の担任の先生がきっかけです。その先生は数学の先生で、私が数学が好きなことを知ると目を輝かせながら数学の楽しさについて教えてくださいました。私はその先生から数学の奥深さだけでなく、高校の先生として数学と関わることの素晴らしさを強く感じ、絶対に数学の先生になりたいと、決意を固めることができました。

夢の実現のために、これからも努力し続けたいです。

(S.T)

ひとり親家庭サポーターのつどい

心の声～はじめての手話講座

R 7・11・9 (日)

令和7年11月9日に、パルティ3階研修室に於いて“心の声～はじめての手話講座”と題して、ご自身も聾者であり、栃木県聴覚障害者理事、手話対策部長の古橋浩司様をお招きして、講座をしていただきました。

前半では、2006年に国連に於いて手話が言語として定義された歴史をはじめ“手話言語法”制度に向けての動き、栃木県では“手話言語条例”が制定されておらず、遅れている現状などのお話がありました。そして、手話と音声語の違いや、聴覚障害者の生活の動画を視聴し、手話が出来ない場合のコミュニケーションの取り方なども教えていただきました。



開会のあいさつ

後半は実践の時間。指文字から始まり、簡単な挨拶や自己紹介の単語を教えていただき、そのあとは自己紹介を交えた会話ができるようになりました。

ただ、出来るようになったと言っても、生活の中で使えるようになるのは簡単なことではありません。ですから、私たちが今出来ることは、まずは関心をもつことだと思いました。

今回の講座によって、視聴言語（目で見る言葉）の手話と、聴覚言語（声を聴くこと）の音声語の違いを知り、聞こえないという生活を知る。そして、

上手く出来ないなりに、相手の目をしっかり見て身体で表現するなど、手話に関心をもつきっかけになった講座となりました。

(石川 由美)



講師 古橋浩司様



手話「嬉しい・楽しい」



参加者の皆さんと手話の実践



今年度から母子部長になり、各支部の皆様の活動を目の当たりにして、今後佐野もさらなる向上が出来る様頑張っていきたいと思いました。

これからも、皆様の楽しい投稿お待ちしております。

「ぶちとまと」は、赤い羽根共同募金配分金により発行しています。



公益財団法人 栃木県ひとり親家庭福祉連合会

宇都宮市野沢町4-1 ☎ 028(665)7806
発行人：栗橋幸子 印刷所：高橋平版社